SNSでの再会は、キャリアの再開へ

—SNS上での弱い紐帯との交流がキャリア・リフレクションに及ぼす影響—

○永野惣一¹・藤 桂²

(¹筑波大学大学院人間総合科学研究科・²筑波大学人間系)

キーワード：弱い紐帯、キャリア・リフレクション、ソーシャルネットワークワーキングサービス

From reunion via SNS, to restart your career: The effects of interaction with weak ties via SNS on career-reflection.

Soichi NAGANO¹ and Kei FUJI²

(¹ University of Tsukuba, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, ² University of Tsukuba, Faculty of Human Sciences)

Key Words: Weak ties, Career reflection, Social Networking Service

問題と目的

これまで、他者との会話・対話を通したリフレクション(省察)が、職業人としての熟達や成長を促すことが示されてきた(Schein, 1978; Savickas, 2005)。これに対し永野・藤(2016)では、弱い紐帯(Granovetter, 1973)との交流および会話からも、自分のこれまでの職務やキャリアに対する振り返りおよび考え方の変化が生じることを示しており、弱い紐帯もまた、キャリアに対する省察を促進する要因として機能することが考えられる。

ここで、近年ではソーシャルネットワークワーキングサービス(Social Networking Service; SNS)の普及と発展とともに、これまで遠方で暮らし、自分とは異なる生活圏で暮らす弱い紐帯とも、頻繁に接触しやり取りができるようになった。こうしたSNSにおける弱い紐帯との関わりに関して、例えばGee et al. (2017)では、Facebookを活用した求職者のネットワークは、弱い紐帯の数量が多いほど、就職活動に対して効果があることが示されている。この知見を踏まえると、SNS上でも永野・藤(2016)の知見と同様に、弱い紐帯との交流や会話を通して、キャリア・リフレクションが生じる可能性が予測される。以上より本研究の目的として、SNS上における弱い紐帯との会話や交流が、キャリア・リフレクションをもたらすかを確認しつつ、その具体的内容について詳細に検討する。第二に、SNS上における接触の頻度と、対面での接触頻度と両方を考慮しながら、その違いが会話の内容およびキャリア・リフレクションの特徴にどのように関連しているのかについても検討する。

方法

手続き 2018年3月に20歳以上60歳以下の現職会社員、かつ、国内における代表的なSNSの一つであるFacebookのアカウントを保持し使用している者を対象として、webパネル調査を行い、180名(男性138名、女性42名、平均年齢44.28歳、 $SD=9.73$)の回答を得た。

調査項目 (1) 調査対象者をランダムに4群に分割したうえで、「[A] 対面をよく会い、かつ、Facebook上でもよく話す人」「[B] 対面をよく会うけれども、Facebook上ではたまにしか話さない人」「[C] 対面ではたまにしか会わないけれども、Facebook上ではよく話す人」「[D] 対面ではたまにしか会わず、かつ、Facebook上でもたまにしか話さない人」のいずれか1つを提示し、該当する者が自分の

アカウント内の友達リスト内に何名いるかについて尋ねた。

(2) (1)で挙げた者の中で、「過去1年間のうちに、コメントなどのやり取りをしたり、その人の投稿を閲覧したりするなどして、自分の仕事や働き方のことについて考えたり、これまでの仕事ぶりやこれからのキャリアなどについて振り返ったりするきっかけとなった人」がいるかどうかについて尋ねた。そして、いる場合にはその人物のインシラルの想起を求め、その際の「会話の内容」と「リフレクションの内容」について自由記述を求めた。

結果

[A]では50名(27.8%)、[B]では33名(18.3%)、[C]では47名(26.1%)、[D]では50名(27.8%)の回答を得た。

自分の仕事やキャリアについて振り返るきっかけとなった、Facebook上での会話の内容とキャリア・リフレクションに関する自由記述の回答を分類した結果、会話内容は2つの上位分類と4つの下位分類に、キャリア・リフレクションは2つの上位分類と6つの下位分類に整理された(Table 1)。

さらに、会話内容およびキャリア・リフレクションの内容が、[A]から[D]の4群においてどのように異なるのかを検討する目的で、下位分類ごとに、記述の有無×群のクロス集計表を作成し、 χ^2 検定を実施した。その結果、会話内容においては「キャリア検討に関する話題」で、キャリア・リフレクションにおいては「過去からの仕事の取り組みへの捉え直し」で有意となった(順に、 $\chi^2(3)=9.18, p<.05$; $\chi^2(3)=10.89, p<.05$)。残差分析を行った結果(Table 2)、いずれも、D群の「対面ではたまにしか会わず、Facebook上でもたまにしか話さない」という相手との間で、「キャリア検討に関する話題」がより多く交わされ、「過去からの仕事の取り組みへの捉え直し」がより多く生じていた。

考察

Facebook上でのやり取りにおいては、自分の仕事や働き方に関する話題や会話が交わされているのみならず、自身の仕事やキャリアに対する振り返りが、多岐にわたって生じていることが確認された。すなわちSNS上でもキャリア・リフレクションが生じることが示されたといえよう。また対面上とSNS上の双方において、たまにしかやり取りをしないというような接触頻度の低い相手、いわば「現実でもSNSでも弱い紐帯にある」という関係の中で、仕事への取り組みを捉え直すというきっかけが、より生じやすいことも明らかとなった。

Table 1 Facebook上での会話の内容とキャリア・リフレクションについての自由記述の分類

N=180		
上位分類	下位分類	度数(%)
会話の内容	仕事に関する内容	87(38.7%)
	キャリア検討に関する話題	75(33.3%)
	仕事外の個人的話題のやり取り	43(19.1%)
	過去から現在までの軌跡	20(8.9%)
キャリア・リフレクション	仕事外に関する内容	62(21.8%)
	未来に向けてのキャリアの再検討	69(24.2%)
	仕事への取り組みへの捉え直し	35(12.3%)
	発展に向けた自律的な行動変容	44(15.4%)
	職業人として鼓舞される感情	40(14.0%)
	自己受容・安心感獲得	35(12.3%)
感情的変容		合計 510

注：度数はのべ数

Table 2 記述の有無×群のクロス集計結果

		対面接触頻度高群				対面接触頻度低群			
		[A] SNS交流頻度高群	[B] SNS交流頻度低群	[C] SNS交流頻度高群	[D] SNS交流頻度低群	[A] SNS交流頻度高群	[B] SNS交流頻度低群	[C] SNS交流頻度高群	[D] SNS交流頻度低群
キャリア検討に関する話題	あり	16 (-1.63)	10 (-1.47)	20 (0.14)	29 (2.76)	16 (-1.63)	10 (-1.47)	20 (0.14)	29 (2.76)
	なし	34 (1.63)	23 (1.47)	27 (-0.14)	21 (-2.76)	34 (-0.97)	23 (-0.14)	27 (3.15)	21 (-2.0)
仕事の取り組みへの捉え直し	あり	22 (0.97)	13 (0.14)	9 (-3.15)	25 (2.0)	22 (0.97)	13 (0.14)	9 (-3.15)	25 (2.0)
	なし	28 (-0.97)	20 (-0.14)	38 (3.15)	25 (-2.0)	28 (-0.97)	20 (-0.14)	38 (3.15)	25 (-2.0)

注：括弧内は調整済み残差の値を示す。